

आयूस: あーゆす

〈発行〉 京都文教大学図書館
京都文教短期大学図書館／京都府宇治市槇島町千足80

☐☐☐☐☐☐☐ 拝啓 親愛なるレイコさま ☐☐☐☐☐☐☐

(cc: 日本図書館協会会長 塩見昇先生)

京都文教大学図書館長

総合社会学部・教授(社会学) 柏岡 富英

ご新居の「月の心」でお目にかかってから、もう三週間にもなります。その後お加減はいかがですか。iPSは圧迫骨折の治療にも役立つのでしょうか。山中教授によほど頑張っていたかかないといけません。

きょう午後、国立国会図書館関西館の開館10周年記念展示会をのぞいてきました。入り口でパンフレットをもらって、順路にそって進むと「第一章」は「百年前の図書館」で、京都帝国大学の図書館や、島文治郎の関西文庫協会の話。日本で初めての図書館専門雑誌『東壁』の第一号も展示されていました。「第二章」は大正と昭和前期の図書館で、阪急池田文庫の前身の宝塚文芸図書館（こんなものがあったんですね）の『月報』創刊号に目を引かれました。もっとも、このあたりまでは、「稀覯本がずらりと並んではいるけれど、まあ普通の展示やな」と思っていました。ところが「第三章」（「戦後図書館運動の起こり」）に歩を進めたとたん、「豊後レイコ」という字が、まるでそこだけに拡大鏡を当てたみたいに、僕の細い目に飛び込んできました。

終戦直後にアメリカの民間情報教育局（CIE）が展開した図書館運動が、「日本でほとんど取り入れられていなかった先進的なサービス」を試み、「その後の図書館のあり方にも影響を与えた」

という趣旨です。そして眼前のパネルには「長崎のちに大阪CIE図書館に勤務した豊後レイコの回想（資料22）」が取りあげられていました。「資料22」というのは、むろん『あるライブラリアンの記録・補遺』のことです。

この時点で、この展示会に対する僕の評価は「普通」から「極上」へとハネあがったのであります！ コノ輝ヤケル情景ヲバ、豊後サンニオ伝セズシテ如何セン、などと妙に漢語調にコーフンし、「場内撮影禁止」のところを、担当の方に掛け合って何枚かの写真を撮らせていただきました。それを添付書類でお届けします。ただ、携帯電話についている粗雑なカメラで撮ったので、文字の判読は難しいでしょうから、以下に転記します。

#####

CIE図書館とは、占領軍の総司令部・連合国軍最高司令官（GHO/SCAP）の民間情報教育局（Civil Information and Education Section）が、占領軍による民主化遂行に資するために各地に設置した図書館（Information Center）である。東京をはじめ、全国主要都市約20か所に設置された。

関西では、京都、大阪、神戸などに設置され、奈良図書館でも、GHQ/SCAPから図書・雑誌の提供を受けて館内に図書室が併設された。長崎のちに大阪CIE図書館に勤務した豊後レイコの回想（資料22）

は、当時の状況を伝える貴重な資料となっている。

CIE図書館は、開架式を採用しており、来館者はグラフ雑誌や新聞を自由に本を手にすることができた。(柏岡註：この文章おかしいですね。)また、アメリカで流行している映画の上映会、英会話クラブ、講演会、読み聞かせにコンサートなども行われた。娯楽だけでなく、戦時中、十分な情報を得られなかった研究者たちにとっては、外国の最新情報を得ることができる貴重な場所だったともいわれている。

CIE図書館は、占領下のメディア統制の中で、生のアメリカ文化に触れることができる場として、多くの人々に受け入れられた。

#####

『八八歳レイコの軌跡：原始野・図書館・エルダーホステル』129ページの、フライデイさんと写真も、ガラスケースの中でちゃんと展示されていました。豊後さんに初めてお目にかかった

のは、僕が大学院生だったころの大阪アメリカ文化センターでしたが(もう40年も前です)、あの図書館からどれほどの知的刺激を受けたことか。まったく上の記述の通りです。

豊後さんが心血を注ぎ込まれたエルダーホステル日本協会を閉じなければならなくなったとき、僕は理事長としてほんとうに情けなかったし、恥ずかしかった。それを隠そうとして「僕は豊後さんに添い遂げたんや」などとうそぶいていましたが、まだまだ「添う」べきことがいっぱいあると痛感しました。

まず手始めは、ご新居で音楽を聴ける環境を整えることですね。関西館のデジタル・アーカイブには古い音源もいっぱいあります。さいわい娘たちも協力してくれそうなので、いくつかの手を試してみましょう。近いうちにセットアップにお伺いします。

敬 具

(かしおか とみひで)

本年4月から地元宇治市の市立図書館と連携を開始しました。
今回、宇治市中央図書館の北岡館長から本学学生の皆さんへ
メッセージをいただきましたので紹介します。

◆◆◆◆ 新しい出会い・広がり期待を込めて ◆◆◆◆

宇治市中央図書館長 北岡和昌

京都文教大学、並びに京都文教短期大学の在学生のみなさん初めまして。

平成24年4月より、みなさんの大学、短期大学の図書館と連携させていただいております宇治市中央図書館館長の北岡和昌と申します。

宇治市には、市立の図書館が3館あります(中央図書館、東宇治図書館、西宇治図書館の3館。以下「宇治市図書館」と言います。)、残念なことに、いずれもみなさんの学校から離れているため、利用したことがない、いや、ひよっとすると、どこにあるか知らないという人も多いかも知れませんね。

今回の連携で、大学図書館には、宇治市図書館の「予約図書配本所」になっていただきましたので、ぜひ活用していただき、「あの時、あの本に出会えてよかった」と、宇治市の本が、みなさんの学生生活の思い出のひとつになったならうれしいです。

紙面の関係もあり「予約図書配本所」のことは詳しく説明できませんので、大学・短期大学図書館のホームページなどでチェックしてください。
※大学・短期大学図書館トップページ→「総合案内」→「宇治市図書館との連携について」

さて、この文章をみなさんがご覧になるころ、すでに終わってしまっていたら申し訳ありません



早朝の中央図書館

が、宇治市中央図書館では、10月最後の日曜日から3週連続で、『大人のための“ウィークリー朗読会”』を開催します。その第1回目の10月28日(日)に、図書館連携初年の記念として、みなさんのご学友に出演していただきます。大学生の感性で、一味違った朗読を披露していただけるのではと期待しております。13時30分開演で、定員は先着50名、事前申し込みは不要です。気軽にお越しください。

また、11月18日(日)は、中央図書館に隣接する「中央公民館」を借り切り、除籍した本の「リ



閲覧スペース (中央図書館)

サイクル市」を9時より開催します。宇治市図書館の「貸出券」をお持ちなら、10冊お持ち帰りいただけます。「貸出券」は、その場で作ることができます(免許証・保険証など住所確認できるものと、学生証をお持ちください)。

その他にも、東宇治図書館では、開館20周年記念として、11月23日(金・祝)に国立国会図書館関西館より講師を招き、「往年のベストセラーを振り返る～明治から平成まで～」と題した講演会を行います。こちらも申し込み不要で、13時30分開演、定員は先着70名です。

宇治市図書館は、子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の方が利用されますので、本を借りるだけでなく、みなさんの日ごろの研究成果の発表



中央図書館から見た夕景 (10/20)

や、理論の実践の場としても利用していただけるのではないかと思います。

このたびの連携を機に、図書館同士だけでなく、学生のみさんと図書館職員、そして、みなさんと宇治市民の交流が広がればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(きたおか かずまさ)

▲▲▲▲ アナログとデジタルのはざま ▲▲▲▲

ライフデザイン学科・教授(建築史) 山田 智子

本や資料を探すには実に便利な世の中になった。今では先にネットで検索し、本のありかを確認してから図書館へ行くということが普通になった。また古い図書や論文でも一部はネット上で全文を読むことができる。さらに世界中のデジタル

化された文献が日本の自宅に居ながらPC画面で読めるのだ。たとえば韓国の国立図書館のホームページからはキーワード検索で日本統治時代に発行されていた現地の日本語新聞の記事を読むことができる。そのうちすべての文献がデジタル化さ

れば、図書館に行く必要がなくなるのかもしれない。

ひと昔前、本を探すのには時間がかかった。たいていは本棚の分類を頼りに棚の中を1冊ずつ見ていくか、あるいは葉巻筒のような小引き出し（今でも短大図書館の入口脇に置かれている）の中の図書カードを1枚1枚見ながら探したのである。今にして思えばなんという労力だろう。このような創造性のない作業はなくなってよかったのである。だが、一方でアナログの図書館の世界には愛着がある。そこでなぜ愛着があるのかを考えてみた。

ひとつは文字や図以外の情報を吸収できることである。図書そのものがデジタル化されると、文字や図以外のものは目に入らなくなる。紙の質や風合いやインクの状態などは抹殺される。たとえば、明治や大正期に和紙に墨で描かれた建築図面は、虫食いさえなければ色あせず現代でも美しい。丸まらないので扱いやすくもある。昭和の終戦前後に発行された本は、紙の黄ばみが激しく、しかももろい。物資が窮乏していた当時の状況を嗅ぎ取ることができる。

映画好きなのでその他に例をあげると、『ハリー Potter と賢者の石』の一連の作品では、ハリーの同級生のハーマイオニーが何か調べたいものがあるとすぐに学校の図書館へ行く。そこは大英帝国時代の暗くて天井の高い図書館のようで、古い木製の本棚に革表紙の分厚い本がぎっしり埋まっている。この革表紙の手触りなどはデジタル化されるとわからなくなるのだ。この物語はデジタルの世界とはあわない。アナログであることの魅力をうまく伝えている。

愛着を感じるふたつめは図書を通して人間との触れ合いがあることだ。スタジオジブリの『耳をすませば』という映画では、中学生の雫が恋をする。雫が図書館で借りる本の貸出カードにいつも同じ男子の名前があったことがきっかけである。貸出カードの痕跡は今も短大図書館の古い本に残っている（さすがに個人名は書かれていない

が、懐かしくなって微笑んでしまう）。貸出カードに記されたわずかな手書きの文字からでもその人の性格や習性等を読み取ることができる。今の生活の中では手書きの文字に出会う機会はめっきり減ったが、たまに出会うと相手の息づかいまで聞こえそうでドキドキする。手書きはつくづく「肉筆」なのだと思う。

かつてフランスの外交文書センターにフランス保護領時代のモロッコの資料を調べに行ったことがある。資料は20冊くらいファイルにタイトル名で分けて整理されていた。効率を度外視した手作業でつくられたものである。ファイルを見て閲覧したい資料のタイトル番号をカウンターで伝えれば、その資料を受け取って閲覧できるシステムになっていた。資料は小型の段ボール箱に入っていて、行政文書やら丸めた手描きの地図やらがザクツと入っていて宝箱のようだった。それらをしばらく閲覧していると、司書の女性が絶妙のタイミングで現れ、何か困ったことはないか、お手伝いしましょうかと声をかけるのだった。結局のところ、こういう生身の人間のサービスって大切なのではないかと思う。

以上述べたことが魅力となってアナログの図書館への愛着につながるのだろう。そう考えつつも、最近、これまでに収集した紙媒体の資料をデジタル化するためにドキュメントスキャナーを購入した。あっという間にPDFに変換されるので驚いた。よしっ、これからはどんどん資料をスキャンして部屋をすっきりさせようと意気込んだ。それなのに元の資料が捨てられない！ ジレンマに陥る私である（笑）。

（やまだ ともこ）



❖❖❖❖ 私のすすめる3冊 ❖❖❖❖

食物栄養学科・准教授（給食管理） 浅野 美登里

1. 『フードファディズム -メディアに惑わされない食生活-』

高橋 久仁子 著／中央法規出版

捏造されたテレビ番組の情報が、納豆品切れ騒動を引き起こしたことを覚えていますか。フードファディズム研究の第一人者である著者は、フードファディズムを「食べものや栄養が健康や病気に与える影響を過大に信奉したり評価すること」と定義しています。これまで日本で実際に起こった事例を取り上げ、情報の的確な読み取り方と誤った情報がどのように発生し、私たちの意識に浸透していくのかを具体的に解説しています。

2. 『変わる家族 変わる食卓 -真実に破壊されるマーケティング常識-』

岩村 暢子 著／中央公論新社

マーケティング・リサーチの専門会社で取り組んできた食卓の実態調査を通して、現代人の食の価値観や家族観に迫っています。他人の家庭の日常の食卓を見る機会はあまりありませんが、「ごく普通の家庭の日常の食卓」の変貌と食の乱れは大変ショッキングです。また、この7年後のデータをまとめた『家族の勝手にしょ！-写真274枚で見る食卓の喜劇-』も大変興味深い一冊です。併せて読むことをお勧めします。

3. 『困ってるひと』

大野 更紗 著／ポプラ社

ある日突然、原因不明の病に襲われた著者の想像を絶する入院生活と、その後の悪戦苦闘を綴った女子大学院生の闘病記です。書店のポップのキャプションに、「困っているのに、不思議と元気をくれる本」と書いてあるように、よくある闘病記とは少々趣が異なります。どのような環境に置かれても、絶対生き延びるのだという強い精神力、雑草のようなバイタリティーに、思わず「がんばって！」とエールを送りたくなります。

(あさのみどり)

***** 選書ツアー *****

食物栄養学科 I 回生 石浦彩加

かご一杯に好きな本が入っている。6月の選書ツアーに参加し、とてもまれな体験をさせてもらった。

選書ツアーの張り紙は短大の図書館などで目にしていた。興味はあったのだけれど、久しぶりの学業にまだ慣れず、好奇心にふたをしていた。そんなある日、たまたま友人と短大図書館にいたところ、スタッフの方から勧誘を受けてしまった。内容を聞いたら、案の状、参加したくなって、いつのまにか了承の返事をしている始末。しかしきつと、本に興味のある方なら共感してくださるはずだ。選書ツアーでは、ある程度基準は設定されるものの、基本的には自分が興味を持っている本を自由に選んでよい。そんな幸せな話、乗らないわけにはいかないでしょう。この文章を読んでいる本好きのあなた。本、選びたくありませんか？自分の選んだ本が図書館に並ぶというのは、誰でも経験できることではない。図書館に所蔵されると思うと、私にはそれが特別なことのように思えたのだ。また、他の学生さんが自分の選んだ本を手にとるところを想像すると、心が弾むような気持ちになった。調べ物をするはずが、すでに頭の中はどんな本を選ぼうかと考え始めていて、こうなるとどんどん横道に反れていく。自分の気の多い性格を責めるほかない。

参加にあたり、私は自分なりに選書の基準を決めることにした。頭の中に三つのカテゴリーを作ってみた。一つ目は、純粋に自分がいま読みたい本。二つ目は、社会の流れを反映している本。三つ目は、自分が読了し他の方にも読んでほしいと思った本。思いつくままに、候補となる本をこの三つのカテゴリーに入れていった。ツアーの当日は、ジュンク堂の5階から8階を隅々まで見て回った。普段なら足を踏み入れないお固そうで難しい分野にも挑戦してみた。途中、一緒に参加した友達とかごの中を見せ合い、お互いの戦果を報告。探している本が見つからない、こんな良い本

が見つかったなどと言い合って、目線はまた本棚へ戻っていった。最終的に、十数冊の本を選ばせてもらった。どんな本を選んだのか、気になる方は短大の図書館に見て行ってほしい。他にも、このツアーに参加された学生さんが興味深い本をたくさん選書されている。同じ学生の目線で選ばれた本は、思わず目が留まってしまう本が多いと思う。

私は本が好きだけれど、実は、読書量はそんなに多くない。月に2、3冊読む程度で、趣味が読書と言えるのかいつも迷う。本と同じくらい本屋さんが好きで、一度足を踏み入れるとついつい長居してしまう。本のある場所が好きなのだ。気に入った配列で並ぶ本棚を見ると落ち着くし、友人の部屋にある本棚を見ると、とてもわくわくする。どうしてなのか今まであまり深く考えなかったけれど、整列している本には誰かの意思や意図があるからだと思う。棚に並ぶ本を眺めると、本屋さんなら本屋さんの、個人の本棚なら個人の、それぞれの個性が如実に見て取れる。どんな思いでその本を選んだのか、どんなことに関心を抱いているのか、選ばれた本からいろんなことが窺い知れる。もちろん本の中身からも沢山の情報を知ることができるけれど、時には今まで知らなかった友達の一面が垣間見えることもあるのではないだろうか。そこに並ぶ本の数だけ、選ばれた理由があるのだから。今は様々なコミュニケーションツールが存在し、容易で、手早く行えるものが好まれているように感じる。人と人とのコミュニケーションがどこか味気なく感じてしまうこともある。たとえば、物語の中にある作者の意図に思いをはせるように、選書された本からその人のひととなりや想像するのも、それはまた味わい深いものではないだろうか。直接聞けば分かることも、自分で想像して、少し考えてみたくなった。今回の選書ツアーに参加して、本を選ぶ楽しさを改めて感じさせてもらった。さて、次回はどんな本を選ぼうか。

(いしうら さいか)